

東京財団政策研究所ショートウェビナー
＜ 2020年アメリカ大統領選挙プロジェクト ＞

バイデン新政権人事の分析

2020年12月2日
帝京大学法学部准教授
宮田 智之



東京財団政策研究所
THE TOKYO FOUNDATION FOR POLICY RESEARCH

現時点までに発表された人事

【11月11、17日発表】

- 大統領首席補佐官:
ロン・クライン元副大統領首席補佐官
- 大統領上級顧問:
マイク・ドニロン元副大統領顧問
- 大統領次席補佐官:
ジェン・オマリー・ディロン前バイデン陣
営選対本部長
- 大統領顧問:
スティーブ・リケッティ元副大統領首席補
佐官
- 大統領上級顧問:
セドリック・リッチモンド下院議員
- 大統領法律顧問:
ダナ・レムス元大統領次席補佐官

【11月23日発表】

- 国務長官:
アントニー・ブリンケン元国務副長官
- 国土安全保障長官:
アレハンドロ・マヨルカス元国土安全保障
副長官
- 国家情報長官:
アブリル・ヘインズ元CIA副長官
- 国連大使:
リンダ・トーマスグリーンフィールド元国務
次官補
- 国家安全保障問題担当大統領補佐官:
ジェイク・サリバン元国家安全保障問題担
当副大統領補佐官
- 気候問題担当大統領特使:
ジョン・ケリー元国務長官

現時点までに発表された人事

【11月29日発表】

- 大統領報道官:
ジェン・サキ元国務省報道官
- ホワイトハウス広報部長:
ケイト・ベディングフィールド前バイ
デン陣営広報担当
- 副大統領上級顧問:
シモーヌ・サンダース前バイデン陣
営上級顧問
- 副大統領広報部長:
アシュレイ・エティエンヌ前バイデン
陣営上級顧問
- 大統領夫人広報部長:
エリザベス・アレキサンダー元副大
統領報道官

【11月30日発表】

- 財務長官:
ジャネット・イエレン
前連邦準備理事会(FRB)議長
- 財務副長官:
アデワレ・アデエイモ元国家安全保障
問題担当大統領次席補佐官
- 行政管理予算局(OMB)局長:
ニーラ・タンデン元保健福祉長官上級
顧問
- 大統領経済諮問委員会(CEA):
セシリア・ラウズ元CEA委員
ジャレット・バーンスタイン
元経済担当副大統領補佐官
ヘザー・ブシェー
ワシントン公正な成長センター所
長

主な特徴

- 第一に、ほとんどがオバマ民主党政権の高官経験者で、バイデン氏の長年の側近も多い。
 - クライン氏は象徴的存在。バイデン氏に初めて仕えたのは1980年代末で、30年来の付き合い。
 - ブリンケン氏は、2002年に上院外交委員会スタッフに就任して以来、バイデン氏の主要な外交政策アドバイザー。
 - ホワイトハウスの要職に起用されたリケッティ、ドニロン両氏も最側近。
- いずれもワシントン政界のエリート。統治経験の乏しい人材が多く集まったトランプ政権とは対照的。

主な特徴

- 第二に、民主党の大統領らしく、女性やマイノリティの起用に積極的(国家情報長官(女性)、国連大使(黒人女性)、国土安全保障長官(ヒスパニック)).
 - マヨルカス氏の人事が上院で承認されれば、ヒスパニック系としては初の国土安全保障長官に。
 - 経済チームの主要メンバーや、ホワイトハウスの広報幹部は女性。
 - 保健福祉長官に、ヒスパニック系のミシェル・ルーハン・グリシャム・ニューメキシコ州知事が、内務長官に、ネイティブ・アメリカンのデブ・ハーランド下院議員がそれぞれ有力視。
- 第三に、上院共和党の反応を重視。
 - 国務長官人事は最たる例。スーザン・ライス氏の指名を見送り。
 - ただし、タンデン氏のOMB局長指名に対して、上院共和党は即座に反発。

今後の人事

- 国家経済会議委員長:
ブライアン・デーズ元大統領上級顧問
- 米通商代表:
キャサリン・タイ
下院歳入委員会顧問
マイケル・ウェッセル
米中経済安全保障再検討委員
ジミー・ゴメス下院民主党議員
- 司法長官:
サリー・イエイツ元司法長官代行
リサ・モナコ元大統領補佐官
デヴァル・パトリック
元マサチューセッツ州知事
ハビア・ベセラ
カリフォルニア州司法長官
- 国防長官:
ミシェル・フロノイ元国防次官
ジェイ・ジョンソン元国土安全保障長官
タミー・ダックワース上院民主党議員
ロイド・オースティン元陸軍大将
エリザベス・シャーウッド・ランドール
元エネルギー副長官
- 中央情報局(CIA)長官:
トーマス・ドニロン
元国家安全保障問題担当大統領補佐官
マイケル・モレル元CIA長官代行
エリッサ・スロットキン下院議員

今後の人事

- 農務長官:
マーシャ・ファージ下院議員
ハイディ・ハイトキャンプ元上院議員
トム・ヴィルサック元アイオワ州知事
- 保健福祉長官:
ミシェル・ルーハン・グリシャム
ニューメキシコ州知事
ビベック・マーシー元医務総監
- 運輸長官:
ラーム・エマニュエル元シカゴ市長
エリック・ガルセッティ・ロサンゼルス市長
- エネルギー長官:
アーネスト・モニツ元エネルギー長官
アルン・マジウムダール元エネルギー一次官
代行
- 住宅都市開発長官
カレン・バス下院議員
アルヴィン・ブラウン
元ジャクソンビル市長
ケイシャ・ランス・ボトムズ
アトランタ市長
- 環境保護庁長官:
メアリー・ニコルズ
カリフォルニア州大気資源局局長
- 内務長官:
デブ・ハーランド下院議員
スティーブ・ブロック・モンタナ州知事

参考資料: *New York Times* (11/28) 記事 (<https://www.nytimes.com/2020/11/28/us/politics/biden-cabinet.html>) など。

左派の反応

- 左派の反応は比較的冷静。
- イエレン氏を筆頭に、格差是正や労働者を重視する顔ぶれが揃った経済チームは、歓迎。
- サンダース議員周辺には嫌われてはいるものの、タンデン氏のOMB局長指名を支持する声も少なくない。
 - (財政規律派)のブルース・リード元副大統領首席補佐官に比べれば、「まだよい」との声も。
 - ウォーレン上院議員も支持。

左派の反応

- 選挙戦では、バイデン氏は左派との関係を重視、早い段階からサンダース、ウォーレン両陣営と協議。
 - サンダース陣営とは、合同政策タスクフォースまで設置。
 - ブリンケン氏は、サンダース陣営外交顧問のマット・ダス氏との間で定期的に意見交換。
 - 政権移行チームでも、サンダース、ウォーレン両陣営のアドバイザーや左派系シンクタンクの研究者も参加。
- こうした取り組みから、バイデン氏周辺と左派との間で意思疎通が図られている可能性。

左派の反応

- ただし、今後バイデン氏が要職への起用を考えている人物の中には、左派が頑なに拒んでいる者も少なくなく。
 - フロノイ氏について、コンサルティング事業や、新アメリカ安全保障センター(CNAS)を通じて、「国防産業との関係が深いタカ派」と、左派は猛反発。
 - ラーム・エマニュエル前シカゴ市長の運輸長官指名の可能性について、すでにアレクサンドリア・オカシオ・コルテス下院議員が反発。
 - 国家経済会議(NEC)委員長への起用が確実視されているブライアン・ディーズ氏や、同じく要職への起用が検討されているジェフリー・ザイエンツ氏に対しても、企業寄りであるとして批判。

左派の反応

- 左派にとって、オバマ政権は重要な教訓に。
 - オバマ政権の経済チームは、ローレンス・サマーズ氏やティモシー・ガイター氏といった人々によって占められ、左派は影響力を確保できなかった、と記憶。
- 早くから左派は政権人事に向けて準備。
 - プログレッシブ・チェンジ・インスティテュート、ローズヴェルト研究所、データ・フォー・プログレスといった、左派系のシンクタンクや団体が、数百名にも及ぶ詳細な政府高官候補リストを作成、バイデン陣営への売り込みを繰り返す。
- 閣僚だけでなく、あらゆる高官人事に「圧力」。バイデン氏がいかに対応するかも注目。